

製品名: Cleaved-Notch 2 (A1734) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab09019**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	110(cleaved)kDa

抗原情報

遺伝子名	NOTCH2
別名	NOTCH2; Neurogenic locus notch homolog protein 2; Notch 2; hN2
遺伝子 ID	4853.0
SwissProt ID	Q04721
免疫原	抗血清はヒト NOTCH2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 1715-1764

背景

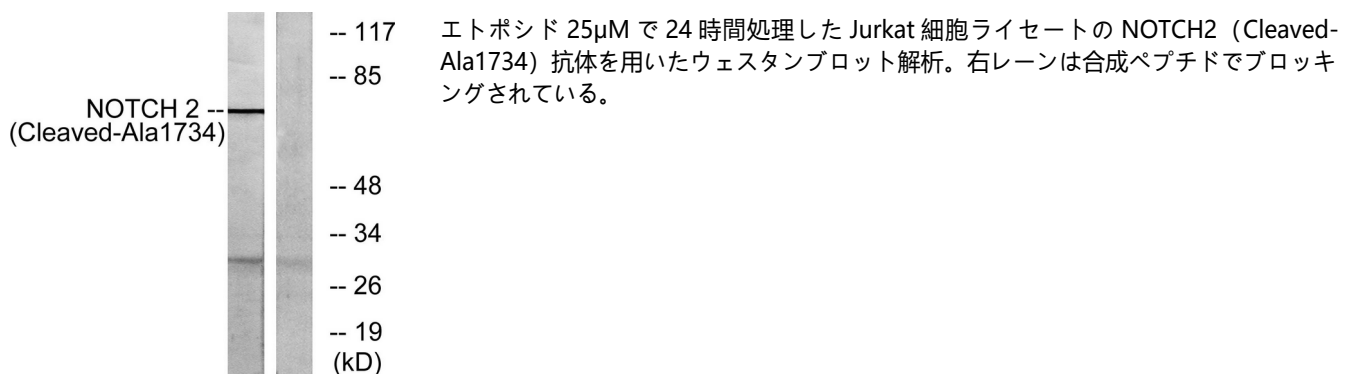
notch 2(NOTCH2) Homo sapiens この遺伝子は Notch ファミリーのメンバーをコードしています。このタイプ 1 膜貫通タンパク質ファミリーのメンバーは、複数の上皮成長因子様 (EGF) リピートからなる細胞外ドメイン、および複数の異なるドメインタイプから

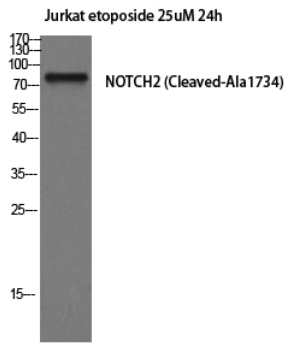
なる細胞内ドメインなどの構造特性を共有しています。Notch ファミリーのメンバーは、細胞運命決定を制御することにより、さまざまな発生プロセスで役割を果たします。Notch シグナル伝達ネットワークは、進化的に保存された細胞間シグナル伝達経路であり、物理的に隣接する細胞間の相互作用を制御します。ショウジョウバエでは、notch とその細胞結合リガンド (デルタ、セレート) との相互作用により、発生に重要な役割を果たす細胞間シグナル伝達経路が確立されます。notch リガンドのホモログはヒトでも同定されていますが、これらのリガンドとヒト notch ホモログとの正確な相互作用はまだ明らかにされていません。このタンパク質は、疾患: NOTCH2 の欠陥がアラジール症候群 2 型 (ALGS2) [MIM:610205] の原因です。アラジール症候群は、肝胆管の減少と胆汁うっ滞を臨床的に特徴とする常染色体優性多臓器疾患であり、心臓、骨格、眼の症状と関連しています。特徴的な顔貌がみられ、腎血管系の臨床的病変はまれに認められます。機能: 膜結合型リガンド Jagged1、Jagged2、および Delta1 の受容体として機能し、細胞運命決定を制御します。遊離したノッチ細胞内ドメイン (NICD) を介してリガンドが活性化されると、RBP-Jκ と転写活性化因子複合体を形成し、スプリット遺伝子座のエンハンサー遺伝子を活性化します。分化、増殖、アポトーシスのプログラムの実行に影響を及ぼします。PTM:リン酸化されています。PTM:小胞体で不活性型として合成され、細胞膜に到達する前にトランスゴルジ体ネットワーク内のフリン様転換酵素によってタンパク質分解的に切断され、リガンドがアクセス可能な活性型になります。切断の結果、C 末端フラグメント N(TM) と N 末端フラグメント N(EC) が生成されます。リガンド結合後、TNF-α 変換酵素 (TACE) によって切断され、ノッチ細胞外切断 (NEXT) と呼ばれる膜結合中間フラグメントが生成されます。この断片はその後、プレセリン依存性ガンマセクレターゼによって切断され、細胞内ドメインを含むノッチ由来ペプチド (NICD) が膜から放出されます。類似性:NOTCH ファミリーに属します。類似性:3 つの LNR (Lin/Notch) リピートを含みます。類似性:35 個の EGF 様ドメインを含みます。類似性:6 つの ANK リピートを含みます。細胞内位置:タンパク質分解処理の後、NICD は核に移行します。サブユニット:C 末端断片 N(TM) と N 末端断片 N(EC) のヘテロ二量体で、おそらくジスルフィド結合によって連結されています (類似性による)。NOTCH2 の転写共活性化因子として機能する MAML1、MAML2、および MAML3 と相互作用します。組織特異性:脳、心臓、腎臓、肺、骨格筋、肝臓で発現します。、

研究分野

背腹軸形成;ノッチ;

画像データ





Cleaved-Notch 2 (A1734) ポリクローナル抗体 (1: 2000 希釈) を用いた Jurkat 細胞のウェスタンブロット解析